

# 令和 7 年度学校評価アンケートの結果

## 学校評価アンケートの項目と当校の課題

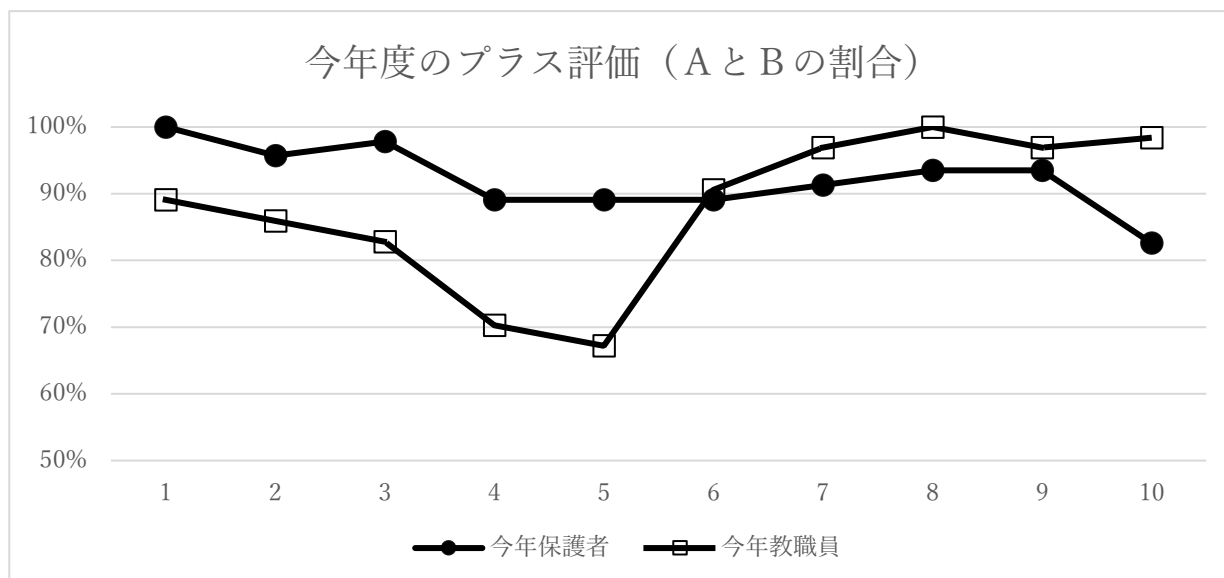
回答方法 A 思う B やや思う C あまり思わない  
D 思わない E よく分からない

○アンケート項目と当校の課題（昨年度アンケートの結果より）

- ①子どもは、授業で学んだことが身に付いていると思いますか。
- ②子どもは、自分で考えたり、自分で決めたりする態度が身に付いていると思いますか。
- ③子どもは、集団や社会のルールを守り、他人を思いやる気持ちが身に付いていると思いますか。
- ④子どもは、健康的な生活習慣や、運動・スポーツに親しむ態度が身に付いていると思いますか。
- ⑤子どもは、語彙力や言語力、状況に応じたコミュニケーション力が身に付いていると思いますか。
- ⑥学校は、地域や他校と交流する活動に適切に取り組んでいると思いますか。
- ⑦学校は、子どもたちが分かりやすい、工夫した授業を行っていると思いますか。
- ⑧学校は、一人一人の子どもを大切にして、誠意をもって教育活動を行っていると思いますか。
- ⑨学校は、子どもの支援のため保護者・関係機関と連携していると思いますか。
- ⑩学校は、障害の理解や様々な研究・研修に取り組み、専門性の向上に努めていると思いますか。

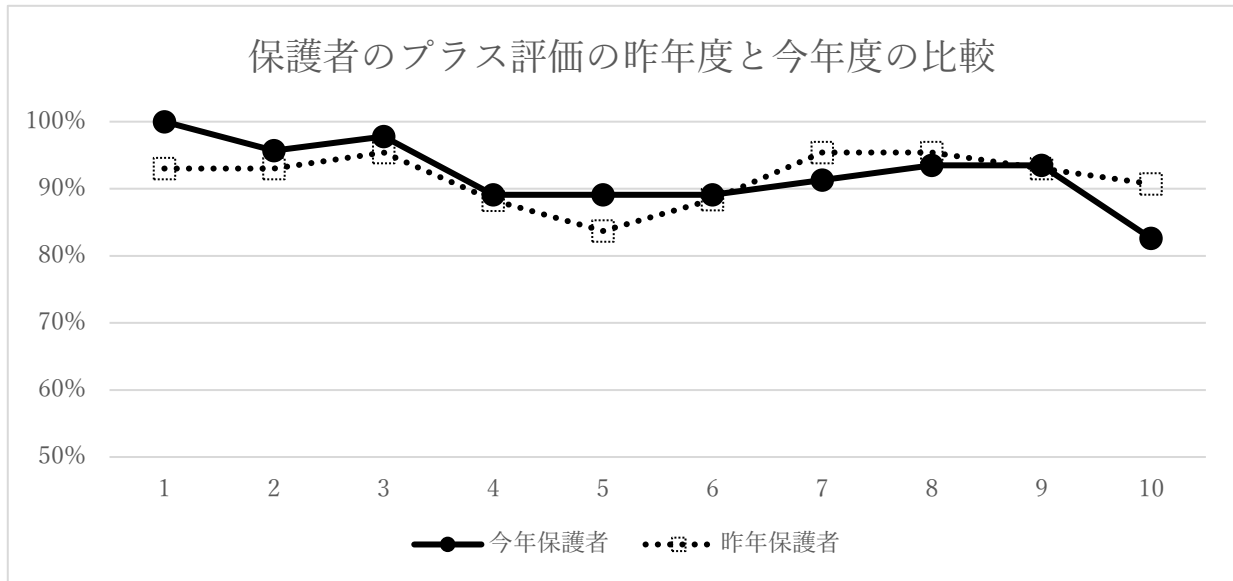
## 今年度の集計結果

### (1) 保護者及び教職員の集計結果（プラス評価の割合）の比較



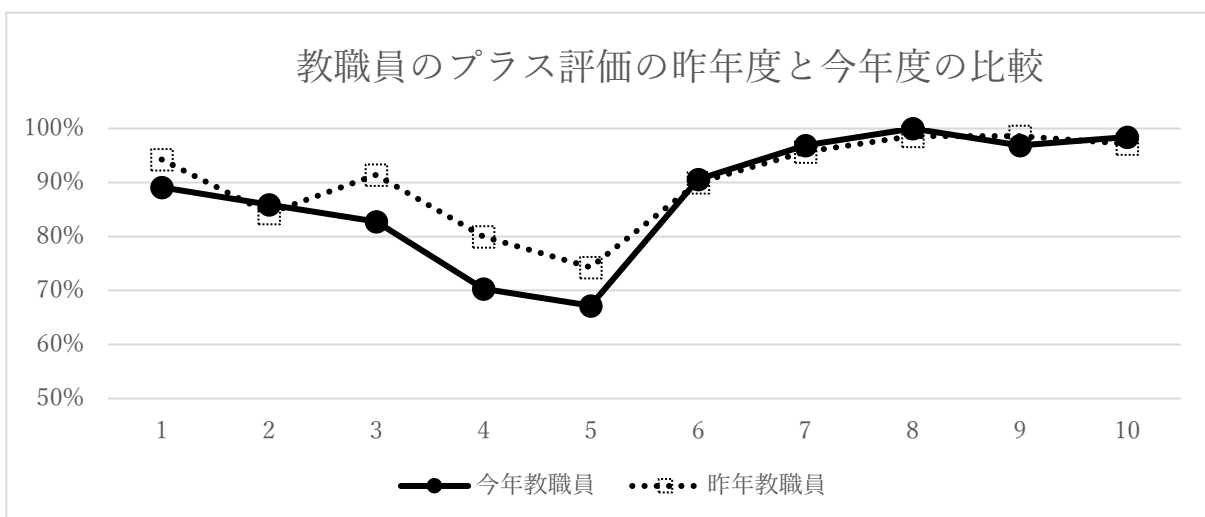
- 保護者評価は、項目⑩を除き全ての項目で 89%以上と極めて高い評価を得ている。特に項目①は 100%に達した。
- 教職員評価は、項目⑧（100%）や項目⑦・⑨・⑩（96%以上）で高い一方、項目④（70.3%）および項目⑤（67.2%）が80%を下回っており、依然として大きな課題となっている。

## (2) 保護者のプラス評価の変化（昨年度と今年度の比較）



- 項目①は昨年度より 7.0 ポイント増加し 100%となった。日々の学習成果が家庭でも実感されていることが窺える。
- 項目⑤（語彙力・コミュニケーション力）は 83.7%から 89.1%（+5.4 ポイント）に上昇した。自由記述でも「去年よりもはるかに語彙力が成長した」との声がある。
- 一方、項目⑩は 90.7%から 82.6%（-8.1 ポイント）へと大幅に減少した。専門性への期待が高い反面、「研究内容が伝わってこない」「教員間で手話のレベルに差がある」といった指摘が見られる。

## (3) 教職員のプラス評価の変化（昨年度と今年度の比較）



- 項目④（健康・運動）は 70.3%（-9.7 ポイント）、項目⑤（語彙・言語力）は 67.2%（-7.1 ポイント）と、共に昨年度より低下した。
- 項目④については、「運動系の部活動が限られている」「意図的に設定しないと運動量の確保が難しい」といった環境面の課題が挙げられている。

- 項目⑤については、教員の指導力向上が求められていることに加え、家庭と学校とのさらなる連携の必要性や知識や視野を広げる活動の工夫が重要ではないかといった分析がなされている。
- 項目②（主体性）は 84.3%から 85.9%（+1.6 ポイント）と微増した。授業の中で「自己決定の場面」を取り入れる工夫が少しずつ成果として現れている。

#### （4）アンケート自由記述より（抜粋）

##### 【項目 1～5：子どもの成長や言語力、生活習慣について】

###### （保護者の意見）

- 去年よりもはるかに語彙力が成長したのを日々感じられる。
- 自分で伝えたい！という気持ちが出てきて、伝える力が成長してきた。
- 算数の計算速度が早くなった。言葉の意味を理解し、会話している。ルールを守るようになってきた。
- 学校で学んだことを普段の生活の中でも活かしている場面が見られる。
- ▲語彙力や、言語力はやや伸び悩んでいるような気がする。
- ▲大人がつい先に言ってしまったり、時間に追われて子どもの考えや言いたいことを待つということなく助けてしまうことも多々あり、まだまだ不足しているところもあるなど感じる。

###### （教職員の意見）

- 自己決定の場면을授業の中で取り入れることで少しずつ決めることができるようになってきた。
- すぐに人のまねをするのではなく、自分はこう思うという意見を例え違っていても堂々と前で伝えている姿が増えたように思う。
- 舎の先生方の働きかけや呼びかけと家族のサポートのおかげでトレーニングに興味を持ち始め、その話題に興味をもった周りの生徒たちも運動に取り組み始めた。
- 幼稚部だが、集団の遊びを繰り返し行う中で、他者のことにも意識が向き、相手を思いやったり仲間意識がめばえたり、ルールを覚えたりする様子が見られている。
- ▲授業の学びがその時だけのものになってしまっていて普段の生活に活用する力が足りないように感じる。
- ▲運動面については、運動系の部活動が限られていることや、お昼休みの時間が短く、体を動かす機会が十分に確保されていない現状がある。

##### 【項目 6～10：学校の教育体制、専門性、地域連携について】

###### （保護者の意見）

- 難聴児にはとっても関わり方も接し方も大ベテランだと毎回感じている。
- 地域の学校との交流が思っていたよりもたくさん交流している。
- 先生方がどのような研修・研究をされているか知る術が無いが、専門性の高い質の良い指導をしていただいていることは実感している。
- 授業参観などで先生方が一人一人に目を向けて授業をしている。
- ▲先生によって、手話のやり方に差があるので分かりにくいことがある。
- ▲配属されてくる先生方が聴覚障害、難聴に精通しているわけではないことを入学してから知った。

## (教職員の意見)

- 実習先の企業の担当者様から、生徒のあいさつや気遣いの一言が素晴らしく、会社でも見習いたいという褒めの言葉をいただき、授業や学校生活の学びが般化されていることが感じられた。
- 幼稚部ではイメージしやすいような様々なイラストを用いており、手書き等も含めると事前事後の言葉のおさえは並々ならぬ準備をしている。
- 子供のために動く職員が多い、手話を含め向上していこうとする気持ちが大きい集団だと思う。
- 全体研修や学部研修に加え、学部内での生徒の情報交換や指導方法の意見交換など、日々生徒のための教育活動を行っている。
- ▲地域や他校との交流活動については、現在の取り組みが限定的であり、交流の機会が十分に確保されているとは言い難い。
- ▲それぞれの授業で工夫しているが、学力につながっていない現状がある。

## 来年度の重点課題

### 1. 生活に生きる「確かな学力」と「社会性」の育成

授業での学びを一時的な習得で終わらせず、日常生活や社会の具体的な場面で活用できる「汎用的な力」の育成に努めてまいります。特に、相手や状況に応じた柔軟なコミュニケーション能力（語彙力・言語力）の向上を重視します。また、企業実習等で高く評価された「挨拶や気遣い」などの好事例を全校に波及させ、社会を生き抜く力の定着を図ります。

### 2. 健やかな身体を育む「運動機会」の確保と環境整備

生徒の運動不足解消に向け、運動系の部活動の選択肢の検討や、休憩時間の活用方法など、時間的・環境的な制約の改善を模索いたします。生徒が日常的にいきいきと身体を動かし、体力の向上とともに心身ともに健やかに成長できるような教育環境の構築を推進してまいります。

### 3. 専門性の継承と「信頼される指導体制」の確立

教職員間での手話技能等のスキル差を解消し、学校全体で一貫した質の高い視覚的支援を提供できる体制を整えます。また、教職員の研修・研究活動を積極的に可視化して保護者の皆様へ発信するとともに、新任者への組織的なバックアップを強化することで、当校が培ってきた聴覚障害教育の専門性を次年度以降も確実に継承してまいります。